様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２１ 日現在

機関番号：１２２０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2023
課題番号：１７Ｋ０２６１２

研究課題名（和文）ロシア帝国の多民族的アイデンティティ形成におけるゴーゴリ文学の意義

研究課題名（英文）Significance of Gogol's Literature in the Formation of Multi-Ethnic Identity in the Russian Empire

研究代表者
大野　斉子（Ono, Tokiko）

宇都宮大学・国際学部・准教授

研究者番号：００６１１９５６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：ロシア帝国における属領出身のウクライナ人作家という境界的な視座から、ゴーゴリ作品を読み返すことで、ゴーゴリ研究に帝国・植民地論を導入した。特にゴーゴリのアイデンティティに注目し、それを歴史認識や文学・文化の系譜という知の枠組みの観点から再構築することを試みた。
結果として当該地域における民族観の歴史的変遷を明らかにし、ゴーゴリ作品の複層性、親ロ的知識人としての意識構造、シェフチェンコ文学との比較から把握される階層の問題という論点を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
ロシア・ウクライナの文学・文化領域において近年展開されてきた帝国論やウクライナの文学研究の成果をとりいれるとともに、ゴーゴリの歴史認識とその民族的アイデンティティの構築における役割を、ゴーゴリ文学を読み解く新たな論点として提示したことに学術的意義がある。また、社会的意義としては、文化領域におけるウクライナとロシアの関係について新たな知見を社会に還元するとともに、ネーションの枠組みを相対化する議論への貢献を行ったことが挙げられる。

研究成果の概要（英文）：Focusing on Gogol's borderline characteristic as a Ukrainian writer from a colony in the Russian Empire, we introduced a discussion based on imperial-colonial theory into Gogol studies. Particular attention was paid to Gogol's identity, and an attempt was made to reconstruct it in terms of the knowledge framework of historical awareness and literary and cultural genealogy.
As a result, we clarified the historical transition of the view of ethnicity in the region, and presented the multilayered nature of Gogol's works, the structure of consciousness as a pro-Russian intellectual, and the problem of hierarchy observed from the comparison with Shevchenko's literature.

研究分野：ロシア文学

キーワード：ロシア文学　19世紀　ウクライナ　ゴーゴリ　アイデンティティ　歴史観　植民地

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

社会科学や文化研究の領域では帝国・植民地研究に基づく異民族知識人の境界性が論点として提示されていたが、ロシアの古典文学研究においてその議論は限定的であった。一方、ウクライナや北米の文学研究では、帝国・植民地研究の観点からゴーゴリをはじめとする作家の研究が開始されていたが、それらの提示する論点はロシアの歴史認識の影響下にあり、19 世紀前半における民族的アイデンティティの歴史性や異民族知識人の意識構造を問う研究は少なかった。

このような背景から、ゴーゴリの民族的アイデンティティを歴史的背景、思想状況など多角的な視点から再構築することが、ゴーゴリ文学の境界的特徴を明らかにする有効なアプローチになると考え、本研究課題を開始した。

２．研究の目的

本研究の目的は 19 世紀におけるロシア帝国の多民族的アイデンティティ形成を考察することであった。本研究を構想するにあたって、ロシア帝国のアイデンティティとは、ロシア人の単一的なナショナリティではなく、帝国領内に住む諸民族の意識や、彼らとロシア人との非対称な関係性を組み込んだ多層的な構造をもつという仮説を設定した。その上で、ウクライナ出身の作家ゴーゴリを手がかりに、文学研究と社会史、メディア状況の実証研究の両面から、非ロシア系民族の意識構造を検証し、帝国のアイデンティティの構造化と社会的共有の過程を解明することを目指した。

３．研究の方法

（1）社会的側面からのアプローチ

ロシア帝国の統治下におけるウクライナ社会の変化とそれに伴う意識構造の変化を、社会制度や教育、党派性に関係する資料の言説分析を通じて実証的に把握することを目指した。

（2）文学研究からのアプローチ

帝国―植民地という関係性に基づいて、ゴーゴリのウクライナを舞台とした作品世界における表象の政治性を探究し、ウクライナ人のアイデンティティが依拠した歴史的記憶や共同体意識の解明を目指した。

４．研究成果

（1）ゴーゴリ作品研究による成果

同時代のウクライナに視座をおいて、『ミルゴロド』所収の作品を読み解き、自らを衰退する共同体として受け止めるコサックの自己意識や、コサック共同体の内部からの崩壊という問題意識を下記の論考において提示した。

・論文　大野斉子「ゴーゴリ『昔気質の地主たち』におけるウクライナの表象」『宇都宮大学国際学部研究論集』47、2019

作品世界の人物や舞台設定における歴史的ディテールを手がかりに、ウクライナ社会や歴史において、主人公たちの階層が占める位置づけを明らかにした。それにより当該作品の夫婦の死というモチーフに、衰退するコサック共同体の消滅という社会史的なテーマが投影されていることを論じた。

・論文　*Токико Оно* «Вий» и историческое мышление Гоголя: анализ мифологической структуры «Вия» и взгляда Гоголя на украинскую историю // SLAVISTIKA. 2020. № 35.

ウクライナ内部に視座を設定して『ヴィイ』の民話的モチーフと物語構造を検討し直すことにより、明示的に読み取れる怪奇的主題の背後に、コサック共同体内部からの崩壊という主題が複層的に組み込まれていることを論じた。

・論文　大野斉子「『狂人日記』におけるバロック的手法から見る狂気の作法」『SLAVISTIKA』33-34, 2019

ゴーゴリ自身の知的・文化的背景の広がりをウクライナ文化史の展開から見直すという立場に立ち、『狂人日記』に組み込まれているモチーフを題材として、ロマン主義を経由してバロック文学に遡るゴーゴリ文学の系譜を再検討した。

(2) 社会的側面からのアプローチによる成果

ゴーゴリの民族意識に関係する資料を元に言説分析を行った結果、その共同体意識や民族観が、現代の源流となる民族・言語・国家観が定着するよりも前の、前近代の知に属するという新たな認識をえた。ゴーゴリの活躍時期が、現代に連なる民族・言語・国家観の定着する過渡期であったことに着目し、歴史学におけるゴーゴリの学術的立場の研究を通じて、ゴーゴリの民族を巡る知的枠組が思想史上に占める位置を把握した。その知見を元に、ゴーゴリ自身の党派的立場や作品を啓蒙主義時代の歴史学やコスモポリタニズムという観点から検証した。

・研究報告　大野斉子「18 世紀から 19 世紀前半におけるウクライナのイメージ形成と歴史観」シンポジウム「ウクライナ文化の挑戦―激動の時代を超えて」2024

ゴーゴリの歴史観が啓蒙主義時代に脱神話化された普遍史に相当することを指摘し、ロシア・ウクライナにおける歴史認識の枠組みの展開の中に位置づけた。

・論文　大野斉子「ネーションと帝国の二重性　ウクライナ知識人のアイデンティティ形成」『三田文学』2023 年

ロシア帝国で活躍したウクライナ出身の知識人体の政治的な党派制という観点から、ゴーゴリの立場を把握するとともに、その立場を決定する要素として出身階層、教育、社会思想上の立場を示した。

(3) 他の文化事象との比較研究による成果

ゴーゴリの民族観の特徴をウクライナ出身者による表象の系譜において相対化するため、シェフチェンコおよびそれ以後に創作されたウクライナの表象の検討を行った。結果としてロマンティック・ナショナリズムの拡大以後、ウクライナの民族性は土地との循環というモデルに基づいて観念されるものとなり、19 世紀後半に土地を形象化する表象体系が文学、美術領域において展開したことが把握された。

・研究報告　大野斉子「タラス・シェフチェンコの作品におけるウクライナの農村の形象」日本ロシア文学界第 71 回研究発表会、2021

ゴーゴリの同時代人であり、19 世紀のウクライナ文学の代表的な詩人であるシェフチェンコの創作の特徴を詩と絵画の両面から考察した。1840 年代の思想的背景との関係、ロマンティック・ナショナリズムに基づく地方の表象の確立、農村を内部から眺める農奴としての視座等の観点から、シェフチェンコによるウクライナの表象に、その後に展開する文化的な民族運動の方向性が見いだされることを考察した。

・論文　大野斉子「ウクライナの風景画におけるリアリズム的表現の展開」『宇都宮大学国際学部研究論集』53，2022

リアリズム時代のウクライナの風景画を題材として、土地の表象を構築する眼差しの変遷を文化的民族運動や土着の風景の開発、歴史的記憶の仮託などの観点から分析した。

(4) 本研究の位置づけと展望

本研究の位置づけ

史学史の展開と関連付け、歴史主義的な観点からゴーゴリのアイデンティティを考察する論点を提示したことが本研究の達成として挙げられる。ゴーゴリの歴史認識を巡る研究は、ゴーゴリの歴史家としての活動に関する文献学的・実証的な研究はあるものの、民族観やアイデンティティ、文学研究との関連付けが薄い領域である。

また、文学的系譜の上ではロマン主義にあたるが、作家の知的枠組みには前近代の痕跡が認められるというように、ゴーゴリの布置を精密に把握したという点において、本研究は成果を上げたといえる。

上記はいずれも、ウクライナをめぐる表象の歴史や、帝政ロシアの帝国・植民地を巡る問題系と連携することによって見いだされた論点であり、当該時代におけるロシア帝国のウクライナ人知識人のアイデンティティを説明する論拠として有効性をもつ。

展望

本課題は、ロシア帝国におけるウクライナ人知識人のおかれた社会的・歴史的状況の調査に基づき表象領域の展開をはかった研究であることから、本課題で行われた議論は、今後、ゴーゴリやシェフチェンコ以外の作家の研究に敷衍することが可能である。

さらに、本課題はウクライナの一部の地域を扱ったものであるが、ウクライナを巡る表象は、19 世紀を通じてそれ以外の地域にも拡大し、近代ウクライナの民族的アイデンティティの礎を形作ったことが見えてきた。本研究を出発点として、帝政期のロシアとウクライナ地域における複層的なアイデンティティ研究に展開することを予定している。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 大野斉子	４．巻 102
２．論文標題 「ネーションと帝国の二重性　ウクライナ知識人のアイデンティティ形成」	５．発行年 2023年
３．雑誌名 三田文学	６．最初と最後の頁 171-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大野斉子	４．巻 53
２．論文標題 「ウクライナの風景画におけるリアリズム的表現の展開」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 『宇都宮大学国際学部研究論集』	６．最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Оно Токико	４．巻 35
２．論文標題 "Вий" и историческое мышление Гоголя : анализ мифологической структуры "Вия" и взгляда Гоголя на украинскую историю	５．発行年 2020年
３．雑誌名 SLAVISTIKA	６．最初と最後の頁 127-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/00080010	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大野斉子	４．巻 33-34
２．論文標題 『狂人日記』におけるバロック的手法から見る狂気の作法	５．発行年 2019年
３．雑誌名 SLAVISTIKA	６．最初と最後の頁 103-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大野斉子	4．巻 47
2．論文標題 ゴーゴリ『昔気質の地主たち』におけるウクライナの表象	5．発行年 2019年
3．雑誌名 宇都宮大学国際学部研究論集	6．最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 大野斉子
2．発表標題 「『ミルゴロド』におけるウクライナをめぐるゴーゴリの歴史認識」
3．学会等名 日本ロシア文学会第72回研究発表会
4．発表年 2022年

1．発表者名 大野斉子
2．発表標題 ワークショップ「文学史から考えるウクライナとロシア」研究報告「19世紀前半におけるウクライナの民族アイデンティティ構築とその背景」
3．学会等名 日本ロシア文学会第72回研究発表会
4．発表年 2022年

1．発表者名 大野斉子
2．発表標題 「タラス・シェフチェンコの作品におけるウクライナの農村の形象」
3．学会等名 日本ロシア文学会第71回研究発表会
4．発表年 2021年

１．発表者名 大野斉子
２．発表標題 19世紀後半におけるウクライナのリアリズム的風景画
３．学会等名 日本ロシア文学会第70回研究発表会
４．発表年 2020年

１．発表者名 大野斉子
２．発表標題 「風景画におけるウクライナの表象」
３．学会等名 日本ロシア文学会第69回研究発表会
４．発表年 2019年

１．発表者名 大野斉子
２．発表標題 ゴーゴリ作品におけるウクライナの表象―失われた過去とノスタルジー
３．学会等名 日本ロシア文学会第68回研究発表会
４．発表年 2018年

１．発表者名 大野斉子
２．発表標題 18世紀から19世紀前半におけるウクライナのイメージ形成と歴史観
３．学会等名 シンポジウム「ウクライナ文化の挑戦ー激動の時代を超えて」
４．発表年 2024年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関